

4/19/2021

ロシアのプーチン大統領がウクライナ侵略に際し、核兵器使用の威嚇にて「このことは、世界に大きな衝撃を与えていました。」
と述べ、「ロシアは「世界で最も強力な核保有国の一つだと公認」しました。グテレス国連事務総長は、核戦争の可能性が「あいつのところに戻ってしまった」(3月14日)と危機感を強めています。
核破壊を引き起さない世論と運動を広げるのが懸念です。

主張

ロシアの「核脅迫」

ながら、無数な歴史を繰りてこぼす。核兵器は「自上」と無縫の統治と支配、侵略の道員です。また、北大西洋条約機構（NATO）の「核共有」がロシアの核使用を抑止しえなくなるまいと心配した。

器先制使用方針を掲げています。核攻撃で先に相手に打撃を加えて有利に戦事を進めるというものです。ロシアとフランスの合同軍事訓練もこのシナリオに基づいています。アーチン大統領が2000年6月に発表した「核抑止の分野におけるロシア・联邦国家政策の

破滅的事態阻むのは世論の力

防ぐため、全世界から
核兵器を一つ残らず
廃絶しなければなら
ずの認識を共有した諸国
が力を合わせ核兵器
を実現しました。しかし
あります。

加すべきです。の日本が定めたる
禁止条約の第一回締約国会議にオ
ブザーバー参加し、核兵器の非人
道性を訴え、核不使用を強く求め
るべきです。被爆国であり、憲法
の榮をもつ日本が、それにこなわ
しい外交を進めるなら、中国と北
朝鮮をめぐる核と軍事による対立
のエスカレートを抑止し、日本の
安全と北東アジアの平和を守る大
きな力になるに違いありません。

基盤は「一国の存立そのものが危険にさらされてくる場合」も核使用の禁制の一つを擧げています。大統領が「危機」と判断すれば、核兵器を使わざるを得なくなるのです。ロシアが配備する戦術核兵器は、アメリカが広島に投下した原爆の数倍に達するものもあると指す。1. は、世界の反核世論と運動です。

日本とアジアの平和にも

は「國の存立そのものが危険にさらされてくる場合」も核使用の基準の一つと挙げています。大統領が「危機」と判断すれば、核兵器を使うこととなるのです。ロシアが配備する戦術核兵器は、一方、米フランク大学の政治学者ニーナ・タネンウォルド氏は、世界で形成された「タブー」が、米政権の核使用を抑えてきたとを公文書に基づいて明らかにしており返し核使用が検討されました。争被爆国の岸田文雄副総理は、「このことを被爆者なりも理解しておればなりません。」「核共有」を議論せよとの主張は、核爆撃の政治家たるのまじきものです。